

～ 冬の星空散歩 ～

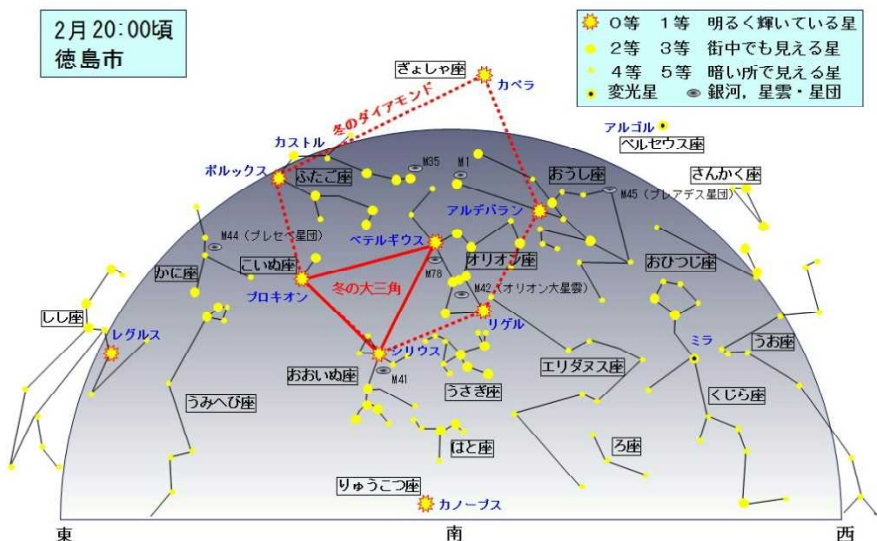
徳島県立総合教育センター

◇冬の星空散歩

*冬の星座と1等星を探そう！

日没後の南の空から頭の上には冬の星座が見えています。冬の夜空は1等星がたくさん輝いていて、とても賑やかです。1等星は全部で21個ありますが、日本(徳島)から見えるのは16個です。その内の8つは冬の星座にあります。オリオン座のベテルギウスとリゲル、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、ふたご座のポルックス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、りゅうこつ座のカノーブス(徳島では条件が良ければ、南の方角の地平線近くにぎりぎり見える)です。

冬の星座の代表は何といってもオリオン座です。この星座の左上で輝く赤い色のベテルギウス(脇の下という意味)とおおいぬ座のシリウス(焼き焦がすものという意味)、こいぬ座のプロキオン(犬の先駆けという意味)を結んでできる三角形は冬の**大三角**と呼んでいます。おおいぬ座のシリウスは地球から見える最も明るい恒星です。また、ぎょしゃ座のカペラ、ふたご座のポルックス、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウス、オリオン座のリゲル、おうし座のアルデバランというように、1等星を6個繋いでできる6角形を、冬の**大六角**または冬の**ダイヤモンド**と呼んでいます。



* プレアデス星団 (M45 和名:すばる)

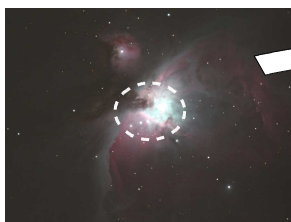
おうし座のプレアデス星団は、150個程度の比較的若い星が集まった散開星団です。地球から約410光年の距離にあり、肉眼でも5から7個の星の集まりを見ることができます。プレアデス星団の名前は、ギリシア神話の巨人アトラスと妖精プレイオーネとの間に生まれた7人姉妹に由来しています。



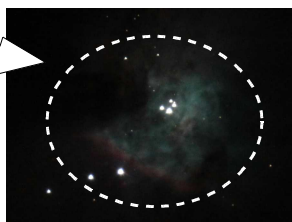
(大川原高原 固定撮影)

一方、日本では昔からプレアデス星団のことは、すばる(昴)と呼んで親しまれてきました。地方によっては「六連星(むつらぼし)」や「羽子板星」などと呼んでいるようです。「すばる(統べる)」または「すまる(統まる)」という言葉は、「統一されている」「一つに集まっている」という意味があります。また、清少納言の著した『枕草子』の一節(第236段)には、「星はすばる。ひこぼし。ゆふづつ。よばひ星、すこしをかし。尾だになからましかば、まいて。」とあります。「星はすばる、ひこぼし、宵の明星が良い。流れ星も少し趣がある。尾を引かなければもっとよいのだけれど。」という意味だそうです。

* オリオン大星雲 (M42) は星のゆりかご！



M42オリオン大星雲



トラペジウム

(総合教育センター20cm屈折望遠鏡)

オリオン座の三つ星の下にある小三つ星、その真ん中は雲のようにぼやっと見えています。これは、地球からおよそ1300光年の距離にあるオリオン大星雲です。ここでは、宇宙の星間物質が集まって、たくさんの星が誕生しています。誕生したばかりの赤ちゃん星が4つ集まった4重星のトラペジウムは小型の望遠鏡でも観測できます。

*2月の星空イベント

◆2月3日 月と木星が接近

細い月が夕方方の空で木星に接近します。月は27日、28日には明け方の空に移動し、金星と火星に接近します。

◆2月13日 金星が最大光度

日の出前の2～3時間の東の空に、最大光度となる明るい金星と、そのそばに火星が見えます。

◆2月17日 水星が西方最大離角

地球の内側を回っている水星は見かけでは、いつも太陽の近くにあり、日の入り後の西の空か日の出前の東の空にしか見えません。

「西方最大離角」では、太陽から西側に最も離れて日の出前の東の低空に見えます。

日の出前にかなり低いところで見えるようになります。東南東の空が開けたところで双眼鏡で探してみましょう。右上のやや離れたところに明けの明星の金星も見えます。